Catch Up 03

授業をしないで幅広い学力の子どもたち全員の力を付ける

岩澤慎氏が学院長を務める岩沢学院（川崎市川崎区）は、自分で勉強が出来るように指導をする、授業をしない自学中心の塾だ。この塾の大きなポイントは、ワイワイ話していた生徒達が授業になったとたんシーンとなって長時間（小学生は２時間半、中学生は３時間）集中して黙々と学習していることだ。岩澤氏と、高校部を指導する大沢健太氏に、現在の具体的な取り組みを教えてもらいながら、なぜそのような指導スタイルになったのか、これまでの歩みにも迫った。

岩澤学院長は、進度の違う子にそれぞれに合わせてオリジナルプリントを提供し、スモールステップで子供たちの学ぶ力を伸ばしている

教員ではなく自由に指導できる塾の道へ

――まずは岩沢学院の歴史についてお聞かせください。

岩沢　68年前に私の母がそろばん塾を立ち上げ、近所の子供たちに指導していました。生徒さんたちは徐々に実力をつけていき、そろばん大会で賞を総なめするまでに。やがてそろばん界では名の通る塾となり、最盛期には2教室で500人の生徒さんがいたと聞いています。ほかにもネイティブ講師による英語教室を開くなど、母はかなり当時では先進的な取り組みをしていたようです。

それから40年ほど経った1990年、私が25歳の時に、子供たちに教科指導をするようになりました。そろばん教室が無いときに、空いた教室を借りるという格好です。数学の教員免許を取った私ですが、学校の先生は教える以外のことが多いですし、いろいろな制約に縛られることに疑問を感じて……学校という枠にとらわれずに指導がしたいと、母親の塾で教える道を選びました。英語力をさらにつけながら指導方法を学ぼうと、大学卒業後は1年間イギリスへ留学もしています。

――塾のあるエリアはどういう特色があるのでしょうか？

岩沢　川崎市川崎区というエリアは、教育に対する意識があまり高くないというのが正直なところです。中学になっても「右」と「左」が分からない、あるいは小学1年生レベルの漢字が未だに書けないなど、他の塾が敬遠するような、対応が難しい子供が多くいます。もちろんそういう子供たちばかりではなく、勉強が得意な子も一定数います。塾を始めて少し経つといい成績を取る子が多くなり、地域の方々にも「岩沢学院は出来る子が行くところ」と認知されるようになりました。

一人ひとりに最適なプリントを作成できる「メビウス」

――現在は出来る子の入塾が多いのでしょうか。

岩沢　いいえ、最初からできる子は少ないです。入塾時約8割の子は数学年さかのぼって復習が必要です。しかし、そういう子も次第に学校でもトップ層を形成するようになってきます。すると、今度は新しく入った勉強が苦手な子と出来るようになった子のどちらも伸ばすにはどうしたら良いのか、そういう悩みが大きくなりました。そこで、中学受験・大学受験をやめ、公立小・中学校生のための高校受験塾に特化しました。さらには、個別指導・集団授業も中止。一人ひとりがその日の学習を自分で行うスタイルに変えていきました。定着の確認のため、合格しないと帰れない手作りテストも毎回実施しています。

大沢先生の協力を得て高校部を再開。大学受験にとどまらず、簿記検定や各種国家試験にも挑戦させているという

――各生徒にプリントを手作りするというのは骨が折れますね。

岩沢　そうですね。進度の違う子供それぞれに全プリントを作問することに限界を感じたため、5年ほど前から「メビウス」というプリント学習教材を導入しています。メビウスは生徒の弱点を克服するために、様々なレベルの問題をデータベース化。それらを自由に組み合わせることで、各人のレベルに合ったオリジナルプリントを作成することができます。

自由度が高いだけでなく、徹底的に反復学習できるところもメビウスの大きな特徴です。子供たちにはメビウスを使ってスモールステップを踏ませることで、徐々に自信をつけてもらっています。

バランスボールやスタンディングデスクなど、集中力を長時間持続させるため教室には様々な工夫を凝らしている

なかには、定期テストの5教科合計が140点だった子が約一年で400点弱をマークするなど、多くの生徒に大きな変化が出ています。

高校部を再開、キッズコースを立ち上げさらに底上げを図る

――現在は高校部も開設されていますよね。

岩沢　はい。2年前に再開しました。関西で塾をされていた大沢先生と知り合えたのが大きく、今は大沢先生に一任しています。

――どのようにしてお二人は知り合ったのでしょう？

大沢　SNSです。私は関西で法律関係の仕事に従事する傍ら塾も開き、学校でトラブルが多い子供を専門的にみていました。ただ、法律関係の顧客は東京がほとんどで、しょっちゅう上京していたんです。これはもう、東京に拠点を移したほうがいいと決意してからすぐ、岩沢先生と知り合いました。

現在は法律関係の仕事の他、岩沢学院の専属講師として高校部を預からせていただいています。高校部も中学部と同様、自学に力を入れています。また、私が直接個別指導もして、大学受験にとどまらず、簿記検定や各種国家試験にも挑戦してもらっています。指導する上で気をつけているのは、「どこまで教えればよいかを見極めること」です。解き方を教えるのか、答えそのものを教えるのか、生徒の理解度や性格に合わせて吟味しています。

岩沢　小学部のメインは小3からですが、最近キッズコースも始めて小1からも通えます。また教科指導だけでなく折り紙やパズル、ブロックなどの遊びを通じ、イマジネーションを膨らませられるよう工夫しています。幅広い年代に門戸を開くことで、少しでも地域の学力向上に貢献できればと思います。

岩沢学院主催のイベントでは生徒が無料で食べられる本格石窯ピザやクレープの出店を呼ぶことも

↘アなどにも後れを取った。行政データ公開の取り組みなどが進まず、データへの接しやすさの評価が低かったことが響いた。データへの接しやすさや生成量などを分析した結果、スイスや韓国も上位に入った。

◆米国の研究者らが提唱する「新たなGDP（データ総生産）」で各国のデータ国力を測ると、トップは米国。データ生成量が断トツだ。データの接しやすさの点で優れていた英国が2位。ネットユーザー数が圧倒的な中国が3位だった。日本は11位で、カナダやオーストラリ↗